



# ふるさと笠松の「モラルセンス No.3」

## 「親切はどんなに小さくても、決して無駄にならない。」



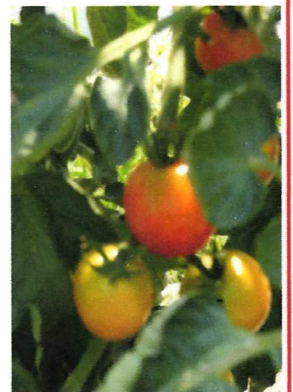
・・・イソップの名言＝イソップは古代ギリシャの寓話作家  
 もし、あなたが誰かを助けてあげたいと思ったとき、あなたはどこまで手を差し伸べられるでしょうか？とてもむずかしい問題ですね。相手のために、自分自身の全てを犠牲にしてまでも助けてあげるようなことは、できなくて当たり前です。ですから、もし人が困っている場面に出くわしたら、あなたに無理のない範囲で助けてあげましょう。バスや電車で席を譲ったり、道を聞かれたら丁寧に教えるなど、小さな親切だとしても、その行動は決して無駄にはなりません。小さな親切でも受けた人はありがたいと思うものです。逆にあなたが小さな親切を受けたときには、「ありがとう」と、感謝の言葉を口に出しましょう。相手はその言葉が励みになって、次の親切へとつながっていきます。小さな親切や「ありがとう」の言葉を、笠松町内、岐阜県、日本中に広め、思いやりにあふれる社会をみんなで築きましょう。

ダイソー「新書判シリーズ6 いい言葉は人生を変える」より抜粋

## 「心は命と向き合っ、初めて成長する。」

荒れている学校を建て直した校長先生に、立て直しの秘訣を尋ねたところ、「生き物を育てることが、すさんで荒れた心を、やさしい心に変える唯一の方法です。」と言われました。

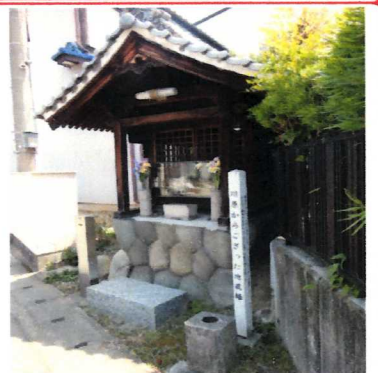
心は命と向き合ったときに初めて成長するのです。イヌやネコ、ハムスター、金魚、カブトムシ、クワガタムシなどの生き物の世話をしたり、アサガオやトマトなどを育てたりすることによって、子どもたちの「やさしい心」を成長させることができるのです。私たちのまわりには命があふれています。しかし、愛情を持って、それらの命と向き合っている子どもは少ないと思います。命に関心が持てるような環境を整えてあげることが、大人の役目の一つですね。



## 石畳散策・・・「ふるさとの歴史と自慢」を求めて

### ○「川原からござった地蔵様」・・・なぜ、川へ流したのか？

下羽栗小学校の近くの中野に、小さなお堂があります。(右の写真) その中には6体の地蔵様(下の写真)が静かにほほえんでみえます。この地蔵様は加茂郡東白川越原村でまつられていたことが台座の文字から分かっています。



なぜ、越原村の村人は、30年余りもお守りをしていた大切な地蔵様を、明治の初めになって、川へ流したのでしょ？神仏分離・排仏棄積の時に川へ流されたのではないかということですが、いかに神道家から

「捨てる」と言われても、おいそれと捨てられるものではありません。しかし、洪水で地蔵様が流されたのなら、6体一緒ということは考えられません。お地蔵様に今の気持ちを尋ねてみたいものです。人生は[捨てる神あれば拾う神あり]です。

### 知って得・徳 コーナー

問題「地蔵と菩薩はどのように違うのでしょうか？」

答え・・・地蔵は地蔵菩薩のこと。子安地蔵・延命地蔵など多数あり。菩薩は悟りを求めて修行する人。観世音・地蔵のように仏に次ぐ崇拜対象。神仏習合による日本の神の尊号。例「八幡大菩薩」広辞苑より

「モラルセンス」に関するお問い合わせ  
〒501-6083 羽島郡笠松町常盤町6  
笠松中央公民館 電話 058-388-3926

